

暮らしの拠点となり 緑が映える落ち着いた空間づくり

新百合山手は暮らしの拠点であることから、人の活動の基盤としてふさわしい落ち着いた雰囲気の景観形成を行いました。また、里山の風景を形作る緑を保全・創出しつつ、その緑が美しく見えるような基盤を形成しています。さらに新百合ヶ丘駅周辺は、都会的・文化的イメージの高い街であることから、周辺イメージと調和する抑制のきいたシンプルでモダンな雰囲気の空間となるよう配慮しています。

<景観形成の考え方>

人々の生活が見える
ヒューマンスケールな
まち並みに配慮された景観づくり

地形の変化や
四季が感じられる
新旧の緑を活かした
景観づくり

落ち着きと
都心らしさを持つ
特色ある景観づくり

■新百合山手イメージパース



※このパースは平成16年4月時点での基盤整備計画に基づく基盤整備イメージであり、実際とは異なります。



西幹線道路沿いの歩道(平成17年撮影)



麻生2号線



大街区の集合住宅周辺



歩行者専用道路(フットパス)(平成17年撮影)



戸建街区の様子



花の木坂